

第1回北海道SDGs推進懇談会 議事概要

1 日 時：平成30年7月23日（火）15：00～17：30（道庁本庁舎 5階共用会議室）

2 出席者：[構成員] 有坂 美紀 大崎 美佳 柏村 章夫 木原 利幸 小泉 雅弘 定森 光
清水 誓幸 菅原 亜都子 鈴木 昭徳 野吾 奈穂子 吉中 厚裕 （11名）

3 主な発言内容

- あらゆるステークホルダーに対応するビジョンを策定するならば、ビジョンを策定するプロセスに多様なステークホルダーが関与すべき。道が予定している策定プロセスでは少し拙速であり、もう少し丁寧にビジョンを策定する必要がある。
- 策定に当たっては懇談会以外の場でも意見を聞くということが必要であり、また、ビジョンが策定された後もビジョンに対する意見を引き続き聞いていくことが必要。
- 「(仮称)北海道SDGs推進ネットワーク」を今後立ち上げるが、ビジョンの策定に当たって懇談会メンバー以外のこうしたネットワークの参加者の方々の意見も聞いていくことも必要。
- そもそもSDGsは誰のためのものかというところ、ここにいる我々のためではなく、子どもや孫たちが安全・安心に暮らしていける北海道のために、今の我々のライフスタイルがこのままでいいのか、というところがSDGs。そう考えると、2030年まで後12年しかなく、ビジョン策定のディスカッションに時間をかけては間に合わない。提示された骨子は、道としてSDGsを進める考えのもので、これはこれでいいと思う。
- 子どもや将来のことを考える視点に加え、今既に困っている人、大変な状況にいる人たちも置いてきぼりにしないということも重要。
- SDGsでは「誰一人取り残さない」というスローガンを掲げているが、逆を言えば、これまでの開発の中で色々な人が取り残されてきたという反省の上に成り立っている。国連でSDGsを策定する際には、策定のための会議の中に女性、若者・子ども、先住民族、など、取り残されがちな人々で構成したグループでの議論があった。骨子で示されているステークホルダーの分類では「誰一人取り残さない」ことへの姿勢が感じられない。
- SDGsの達成に向けた取組が、全体としては進んでも、例えば女性や障がいのある方など取り残されてしまいがちな方々はどうなのかを考えるのも必要。
- ステークホルダーについては、ビジョンの「4 ビジョンの推進」に記載されている方々だけではなく、もっと多様な方々を明記すべき。
- ステークホルダーの分類にあたって、「企業」と一括りで記載されているが、企業と行っても投資家や経営者、労働者などもいて、それぞれがSDGsに対し考え方が違う。また、企業の業態によっても考える視点は違う。それぞれの視点でSDGsを考えていくことが必要。

- ビジョンで用いる指標については、道の既存計画の指標と同様のものに留まるのであれば、せっかく新しいビジョンを作るには意味がないのではないかと。多様な意見を踏まえて指標を追加したり、見直すことが必要。
- 指標については、様々な団体が取り扱っている指標も参考にしようか。
- 骨子の「2 北海道を取り巻く現状」の現状・課題は、せっかくSDGsというので、17ゴールごとに記載した方がよい。また、経年変化で見られるとよりよい。
- 北海道で起きている問題点を明確化するというのをまずはやるべき。
- ビジョンで一番の中心になるのが「めざす姿」であり、多様なステークホルダーにとってのビジョンであるためには、「めざす姿」について議論が必要。骨子で示されている「めざす姿」を前提にせず議論していきたい。
- ビジョンは時間や環境など、状況の変化に合わせて変えていくべき。
- 骨子で掲げている「世界の中で輝きつづける北海道」という「めざす姿」はキーワードとしても良いと感じた。
- ビジョンの骨子は、全体的に見て外に向けて北海道をアピールするというイメージを感じる。北海道に住んでいる一人一人が幸せに生きていけるかという視点をもっと出さないと、SDGsを推進していきたいという意欲が沸かないのではないかと。
- 資料3-1の「4 ビジョンの推進」の「企業の取組」に「中核的事業を通じたSDGs達成への貢献」と記載されているが、貢献から少し踏み込んで「責任」と記載しても良いと思う。CSRも責任である。
- SDGsの普及にあたり、ハードルを上げない方がよい。普段行っている活動の大体がSDGsに繋がっているということを知らないのが現状。意識を変えること、普段の活動の中でできることだと理解できることが重要。
- 道庁が発信するビジョンとなると、道庁が何かをやってくれるという印象になりがちだが、SDGsはそれぞれが自分事だということを感じてもらうための書きぶりやプロセスが必要。
- SDGsの根本は経済・社会・環境の3つを同時に解決することであるが、この部分がもう少し伝わるようなものになればいい。
- SDGsについて分かっている人はどんどんやっていけばいいが、分かっていない人には最初の入口から優しく丁寧に伝えていくほうがよい。また、自分達の生活に直接関わる部分が多くイメージできるとSDGsを理解しやすい。
- 自分達の事業がSDGsに繋がっている、ということを示すとSDGsと関連する具体的な取組イメージを分かりやすく示してもらえると取り組みやすく示して欲しい。